

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 23年11月 - 輸出入ともに弱い動き

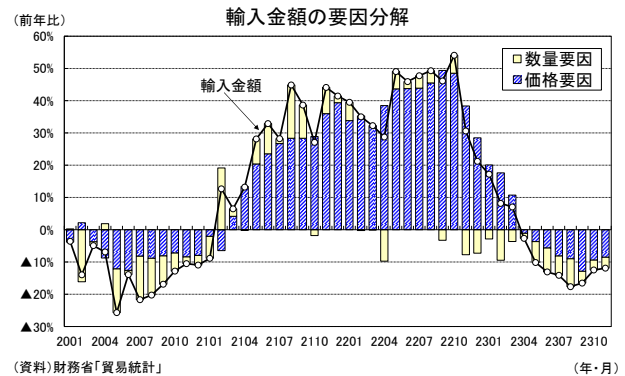
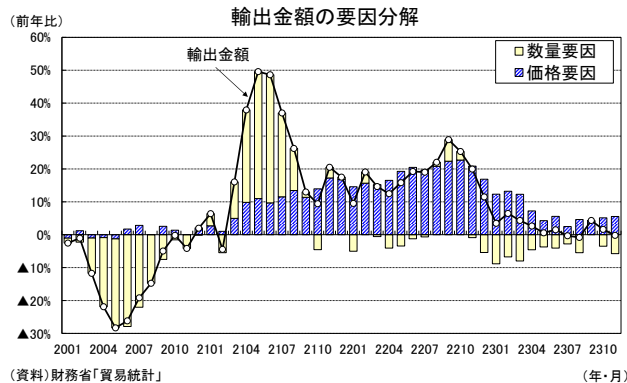
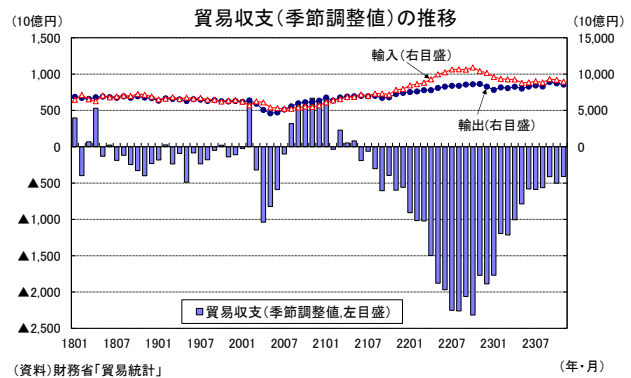
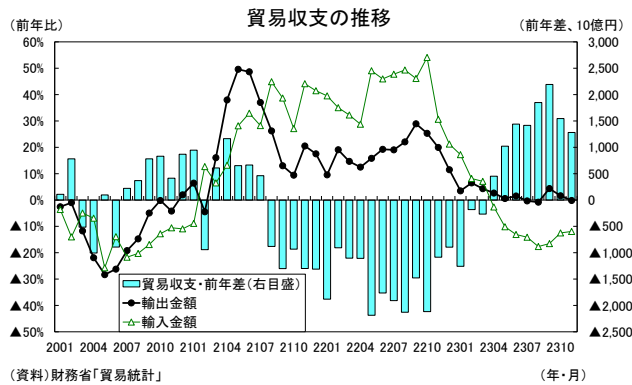
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出が3ヵ月ぶりに減少

財務省が12月20日に公表した貿易統計によると、23年11月の貿易収支は▲7,769億円の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲9,900億円、当社予想は▲10,387億円）を上回る結果となった。輸出が前年比▲0.2%（10月：同1.6%）と3ヵ月ぶりに減少したが、輸入が前年比▲11.9%（10月：同▲12.5%）と7ヵ月連続で前年比二桁の大幅減少となったため、貿易収支は前年に比べ12,807億円の改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲5.6%（10月：同▲3.4%）、輸出価格が前年比5.7%（10月：同5.2%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲3.5%（10月：同▲3.2%）、輸入価格が前年比▲8.7%（10月：同▲9.6%）であった。

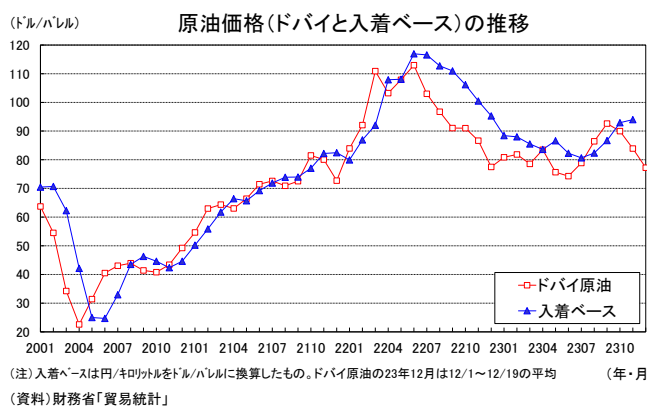


季節調整値の貿易収支は▲4,089億円と30ヵ月連続の赤字となったが、10月の▲5,013億円から

赤字幅が縮小した。輸出が前月比▲1.8%の減少となったが、輸入の減少幅（同▲2.7%）がそれを上回った。

23年11月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=94.0ドル（当研究所による試算値）と、10月の92.9ドルから上昇した。足もとの原油価格（ドバイ）は70ドル台後半まで下落しており、長期契約で販売する際に指標価格に上乘せされる調整金、船賃、保険料などを含めた通関ベースの原油価格は、12月に80ドル台まで低下することが見込まれる。

当面は、原油価格の下落や円安の一巡に伴う輸入価格の低下が貿易赤字の縮小要因となるだろう。



2. 輸出入ともに弱い動き

23年11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比3.4%（10月：同8.8%）、EU向けが前年比▲11.8%（10月：同0.4%）、アジア向けが前年比▲7.5%（10月：同▲7.7%）、うち中国向けが前年比▲9.9%（10月：同▲9.4%）となった。

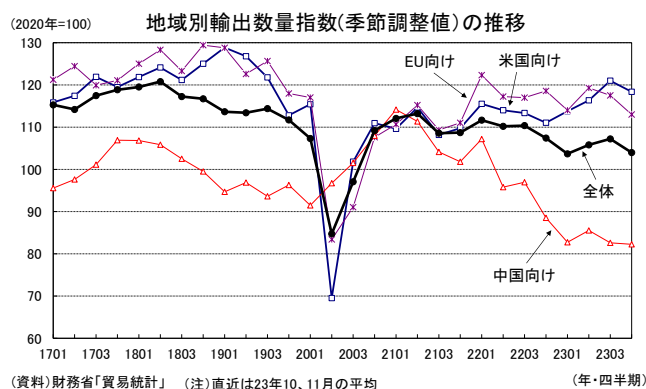
23年11月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比▲4.2%（10月：同0.8%）、EU向けが前月比▲6.3%（10月：同0.4%）、アジア向けが前月比▲1.5%（10月：同▲4.0%）、うち中国向けが前月比▲1.4%（10月：同▲0.1%）、全体では前月比▲4.8%（10月：同▲2.2%）となった。

23年10、11月の平均を23年7-9月期と比較すると、米国向けが▲2.2%、EU向けが▲3.8%、アジア向けが▲2.2%、中国向けが▲0.2%低くなっている（全体は▲3.0%低い）。

EU向け、アジア向けは23年夏場以降低迷が続いており、7-9月期まで堅調だった米国向けも、米国経済の減速を反映し、このところ弱い動きとなっている。

一方、23年11月の輸入数量指数は前月比▲2.0%（10月：同▲1.7%）となり、10、11月の平均は7-9月期を▲1.0%下回っている。

輸出は海外経済の減速、輸入は国内需要の停滞を背景に、このところ弱い動きとなっている。累積的な金融引き締めの影響で景気が減速している欧米向けを中心に、輸出は当面弱い動きが続くことが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。